

はじめに

野々市市は、白山を源とする手取川によって形成された手取川扇状地にあり、その恵まれた自然環境から縄文時代後期（約 4,000 年前）より人々の営みがありました。

当時の人々が生活した痕跡は地中に埋まり遺跡となりますが、発掘調査を行うことによって再び現在によみがえります。

市内で初めて発掘調査が行われたのは、1937 年（昭和 12）の末松廃寺跡で、1956 年（昭和 31）には御経塚遺跡の発掘調査が始まりました。歴史的価値の高い両遺跡は国史跡に指定され、現在は史跡公園として人々の憩いの場になっています。

昭和 40 年代後半より野々市市は、都市開発によって街並みが大きく変貌していき、それと同時に遺跡の発見も相次ぎ、発掘調査の件数も増加していきました。

発掘調査の実施は、地域史解明の重要な手がかりを与え、野々市市はもとより加賀地域の歴史像を考えるうえで大きな成果を挙げました。

今回の企画展は、70 年ほど前から行われた市内の主要な遺跡の調査成果を、発見された出土品や調査時の写真を通して紹介します。